

令和6年度

埼玉県献血推進協議会

令和7年1月30日（木曜日）

午後5時～午後6時15分

埼玉県保健医療部薬務課

令和6年度 埼玉県献血推進協議会 議事録

発言者	内容
<p>司会 (手塚副課長)</p>	<p>定刻になりましたので、ただ今から「令和6年度 埼玉県献血推進協議会」を開会いたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>私は、議事に入るまでの間、進行をつとめます薬務課副課長の手塚でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本協議会は、「埼玉県献血推進協議会要綱」第9条により、公開となっております。</p> <p>現時点におきまして傍聴者及び報道関係者はおりませんことを御報告いたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、横田保健医療部健康政策局長から、御挨拶を申し上げます。</p>
<p>健康政策局長</p>	<p>埼玉県保健医療部健康政策局長の横田でございます。</p> <p>「令和6年度 埼玉県献血推進協議会」の開催にあたりまして、御挨拶を申し上げます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しいところ、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、本県の献血推進事業に、日頃から多大な御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、埼玉県では、令和5年度に約24万人(241,491人)という大変多くの皆様に献血をいただき、献血者は、前年度に比べ2,134人増加しました。それに伴い献血量も増加し、必要とする医療機関に血液製剤を届けることができました。</p> <p>これも献血に関わる全ての皆様の御尽力の賜物です。重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>献血者数は増加しているところですが、年齢階層で見ますと、50歳代以上の献血者数が増加している一方で、10歳代から30歳代の献血者数が減少しており、若年層の献血者数を確保することが今後の大きな課題となっております。</p>

	<p>このため、県や埼玉県赤十字血液センターでは、若年層の献血者の確保に向けて、学生ボランティアやプロスポーツチームの御協力を得て若者を対象としたイベントやキャンペーン、小・中・高等学校等を対象とした「血液に関する出前講座」を開催するなど、若い年代の方々に対し様々な啓発事業を積極的に展開しています。</p> <p>なかでも、教育委員会や私立学校をはじめ関係機関の皆様へ御協力のもと、高等学校における校内献血の推進に力を入れており、令和3年から増加に転じたところでございます。後ほど資料で説明があると思いますが、令和5年度の高校生献血者数は、6,480人となっております。これは、東京都に次いで全国で2番目に多い結果となっております。</p> <p>県といたしましては、今後も、将来の献血を支える若年層の献血者を増やすため、広く普及啓発に取り組んでまいります。</p> <p>皆様には、一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>本日は、今年度の献血状況の報告をさせていただいた後、来年度の埼玉県献血推進計画の案について御審議をいただく予定でございます。</p> <p>今後とも献血により安全な血液を確保し、必要な血液製剤を患者さんにお届けすることができるよう、委員の皆様には忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。</p>
<p>司会</p>	<p>議事に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。</p> <p>委員の皆様へ事前に送付しました資料は、</p> <p>資料1：令和6年度 埼玉県の献血状況について</p> <p>資料2：血液事業の動向について</p> <p>資料3：令和7年度 埼玉県献血推進計画（案）の3種でございます。</p> <p>あわせて、本日の次第と出席者名簿を送付しております。</p> <p>これらの資料についてお手元でございますでしょうか。</p> <p>不足があればお申し出いただければと存じます。</p>
<p>司会</p>	<p>続きまして、オンライン参加の委員の皆様へ操作等について御説明いたします。</p> <p>まず、発言時以外は、音声をミュートにしてください。</p> <p>御御意見・御質問がある場合には、画面上部にある「手を挙げる」ボタンを選択してください。</p> <p>議長が指名しますので、ミュートを解除してから御発言ください。</p> <p>発言終了後は、音声をミュートに戻してください。</p>

司会	次に、本日の会議につきましては、事務局記録用に録画させていただいております。あらかじめ御了承くださるようお願い申し上げます。
司会	<p>続きまして、本日御出席の委員の皆様を御紹介いたします。画面で本日の出席者名簿を共有いたしますので、御覧ください。それでは委員のかたをご紹介させていただきます。</p> <p>行田邦子委員でございます。  鈴木勝委員でございます。  登坂英明委員でございます。  儘田省吾委員でございます。  吉川陽子委員でございます。  五十嵐敦子委員でございます。  前川康恵委員でございます。  鴨志田新一委員でございます。  関純彦委員でございます。  森尾博之委員でございます。  布田雅規委員でございます。  種田恭子委員でございます。  青木孝夫委員でございます。</p> <p>以上、協議会委員 17 名中、本日は 13 名の委員に御出席いただいております。  なお、事務局職員につきましては事前に送付しました出席者名簿のとおりでございます。</p>
司会	<p>それでは、まず 会長、副会長の選出 につきまして、御協議いただきたいと存じます。</p> <p>会長、副会長の選出につきましては、埼玉県献血推進協議会要綱第 3 条の規定により、委員の互選により行うこととされておりますが、今回は事務局から提案させていただきたいと存じますが、皆様よろしいでしょうか。</p>
	(「異議なし」)
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局といたしましては、会長を埼玉県医師会の登坂英明委員に、副会長を埼玉県養護教諭会の種田恭子委員にお願いしたいと存じますが、皆様いかがでございましょうか。</p>
	(「異議なし」)
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、会長を登坂委員に、副会長を種田委員にお願いしたいと存</p>

	<p>じます。</p> <p>それでは、就任にあたり、登坂会長と種田副会長から、御挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
登坂会長	<p>ただいま、委員の皆様から御承認いただき、当協議会の会長に就任いたしました埼玉県医師会常任理事の登坂でございます。</p> <p>会長就任に当たりまして、御挨拶を申し上げます。</p> <p>日本では危機的な少子化が進んでいることもあり、献血が可能な年齢である 16 歳から 69 歳の人口は今後も減少していくことが予想されます。</p> <p>なかでも、先ほど県の横田局長の御挨拶にもありましたが、献血量は増加しているとありますけれども、今後の血液事業を継続していくに当たっては、10 代から 30 代の若年層と呼ばれる世代の献血協力者の減少が課題であると考えております。</p> <p>現段階では、人工的に作り出した血液がまだ実用化されていないため、医療上血液製剤を必要とする患者さんに安全な血液製剤をお届けするために、その原料となる血液を賄うための献血は欠かせません。</p> <p>県からは校内献血の推進に力を入れているとの話もありましたので、学校での献血の実施を受け入れていただくとともに、献血ルームや街頭に配車されている献血バスでの献血に御協力いただけるよう、高校生、大学生への献血経験の機会の提供に努めていただきたいと思います。</p> <p>本日御参加の皆様におかれましては、忌憚のない御意見を賜り、この協議会を活発な議論の場としたいと考えております。</p> <p>本日はよろしくお願いいたします。</p>
種田副会長	<p>皆様こんにちは。</p> <p>登坂会長と同じく、皆様から御承認いただきました埼玉県養護教諭会副会長の種田と申します。</p> <p>ひとつ、御挨拶を申し上げさせていただきます。</p> <p>先ほど横田局長と登坂会長の御挨拶に若年層の献血が不足していましたが、私は県立高校に勤務をしておりますが、自分自身が高校生の時に献血車が来たことで、献血を経験したということがありました。</p> <p>そのため、勤務してきた学校でも献血車を呼ぶことで、生徒への献血の啓発を行って参りました。しかしコロナになってから献血の事業が止まってしまっているというのが学校の現状でございます。</p> <p>私自身も皆様と一緒に埼玉県の献血事業について学ばせていただきながら、また高校での献血活動の再開に努めて参りたいと思います。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>それでは、議事の進行につきまして、埼玉県献血推進協議会要綱第7条第1項の規定によりまして、登坂会長に議長をお願いしたいと存じます。登坂会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>議長 (登坂会長)</p>	<p>それでは、議長をつとめさせていただきます。  本日は、報告事項が2件、協議事項が1件ございます。  それぞれ、事務局から報告を受け、皆様から御質問・御意見を頂戴したいと思っておりますが、報告事項については2件の説明後にまとめて、御質問・御意見を頂戴します。  はじめに、報告事項の1点目「令和6年度 埼玉県の献血状況について」、事務局より御報告をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (長浜主幹)</p>	<p>事務局を努めております埼玉県保健医療部薬務課の長浜と申します。  それでは、令和6年度埼玉県の献血状況について御報告いたします。  大変恐縮ですが、着座にて報告させていただきます。</p> <p>まず、資料1の4ページを御覧ください。</p> <p>今年度の献血確保状況として、まず、血液確保量ですが令和6年11月末までの血液総確保量は、7万1731.16Lと、年度目標10万7560Lの66.7%で推移しています。  昨年度と同じ時期での実績が6万9783.62Lでしたので、昨年度と比較すると1947.54Lの増加となっております。</p> <p>次に全血献血量は、年度目標の6万8274Lに対しまして、4万5786.6Lで、達成率は67.1%となっております。</p> <p>次に成分献血量は、年度目標の3万9286Lに対しまして、2万5944.6Lで、達成率は66.0%となっております。  なお、成分献血は献血ルームのみで実施しています。</p> <p>5ページに移りまして、表の最上段の献血受付者数ですが、11月末時点の受付者総数の比較では今年度は18万2805人と、昨年度の17万8475人に対して4330人増加しております。</p> <p>6ページに移りまして、献血者数と献血ができなかった人数ですが、11月末現在で、献血者数は16万2550人と、昨年度と比較すると2339人増加となっております。  内訳を確認してみますと、全血献血者数と成分献血者数が共に増加していることがお分かりいただけるかと思っております。</p>

また、献血ができなかった人数は、実数、割合ともに増加しております。

続きまして、8ページの校内献血についてですが、今年度は12月末現在で実施校数が65校、献血者数が2,323人で、いずれも昨年度同時期より減少しております。

しかし、校内献血と献血ルーム及び献血バスでの高校生献血者を合算した県内高校生献血者数については4,790人と、昨年度同時期と同水準となっています。

引き続き、高校生に対して献血への協力を働きかけて参りたいと思います。

なお、次の9ページには、献血状況等の年度別推移として、平成21年度から令和5年度までのデータをグラフにしてありますので、御参照ください。

続きまして、10ページを御覧ください。

今年度の献血推進方策実施状況について御報告いたします。

資料では、各事業について、趣旨、実施内容、広報、結果などの項目に分けて掲載しております。

続きまして、11ページを御覧ください。

まず、(1)の普及啓発活動として、愛の血液助け合い運動を実施いたしました。

本県は運動期間を国よりも1か月延長し、7月から8月の2か月間で実施しております。運動期間中の7月30日には、次の12ページにありますように、愛の血液助け合いの集いを開催し、献血功労者への感謝状の贈呈、献血推進ポスターコンクールの表彰などを行いました。

13ページに移ります。

県薬務課及び血液センターでは、SNSを使用した広報といたしまして、それぞれXアカウントを運用しており、献血に関する情報などを投稿しております。

なお、血液センターではfacebook、Instagramも運用しております。

次に、14ページにございますとおり、市町村への補助事業を行いました。

次に、15 ページの（２）若年層献血の推進について御報告いたします。

まず、4月から6月にかけて、新社会人応援キャンペーンを実施しました。

これは、新社会人となった方を対象として、献血を促すことを目的としております。今年度は、329名に御協力いただきました。

16 ページに移ります。毎年実施しております献血推進ポスターコンクールについて、今年度は県内47の中学校から318作品の応募がございました。

知事賞最優秀作品につきましては、愛の血液助け合い運動のポスターとして活用させていただいております。

続きまして、17 ページの初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーンでございます。

これは、献血経験者が献血未経験者と一緒に献血を申し込んだ際に、両者に記念品を配布することで、初回献血者を開拓するために実施しているものです。

18 ページにまいりまして、はたちの献血キャンペーンは、現在、全国一斉に実施しているものです。

今年度も県内市町村の御協力のもと、本日配布しておりますあぶらとり紙を啓発品として、成人式の会場等で約35,000枚配布しております。

19 ページにまいりまして、卒業献血キャンペーンでございます。

このキャンペーンは、高校を卒業する生徒を対象に実施しているもので、昨年度は633名の方に御協力いただきました。

20 ページにまいります。高校生献血カードですが、これは、写真で示したようなカードを高校1年生に配布しまして、高校在学中に献血に協力してスタンプを集めていただくと、スタンプ数に応じて記念品をプレゼントする事業でございます。

21 ページにまいりまして、血液に関する出前講座ですが、これは、依頼のあった学校に、血液センターから講師を派遣いただき、講演を行っているものです。

今年度は、11月末までに9か所で1,012名の参加がございました。

	<p>22 ページにまいりまして、高校訪問ですが、これは県保健所、市町村、血液センターの職員が合同で高校を訪問し、校内献血の実施を依頼するものです。今年度は、11 月末までに 21 校訪問しました。</p> <p>23 ページにまいりまして、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所見学につきましては、今年度は 1 団体 15 名の見学者を受け入れました。</p> <p>24 ページにまいります。次に、(3) その他の献血啓発の取組について御報告いたします。</p> <p>クリスマス献血キャンペーンは主に血液センター主催の活動となりますが、埼玉西武ライオンズとコラボし、期間中に献血に協力いただいた方にグッズを配布したり、12 月 21 日には商業施設においてトークイベントを実施しました。</p> <p>25 ページにまいります。中高年層向けの事業となりますが、60 歳から 64 歳までの間に初めて献血する方を対象としたキャンペーンを 1 月から展開しています。</p> <p>少し飛びまして、27 ページの (5) 適正使用の推進として埼玉県合同輸血療法委員会の活動について御紹介させていただきます。</p> <p>同委員会では、医療機関における輸血医療に関する情報交換や血液製剤の適正使用に向けた調査研究を行っております。3 月 1 日には、輸血療法の向上を目的とした講演会として「第 16 回埼玉輸血フォーラム」が開催される予定です。</p> <p>以上で、今年度の埼玉県の献血状況について報告を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>御質問・御意見については、次の報告の後にまとめて伺います。</p> <p>続きまして、報告事項の 2 点目「血液事業の動向について」、事務局から報告してください。</p>
血液センター (中川所長)	<p>埼玉県赤十字血液センターの中川でございます。</p> <p>それでは私の方から、血液センターでの血液事業の状況について、御説明申し上げます。</p> <p>説明させていただくにあたり、若干時間を要しますので、座っての説明で失礼いたします。</p> <p>まず、「I. 血液製剤の供給状況について」ですが、赤血球製剤、血小</p>

板製剤、血漿製剤の3製剤とも前年度実績よりも増加しております。

これは埼玉県内の高齢者人口の増加、医療機関数の増加、病床数の増加が原因と考えられます。令和6年度実績において、12月末日で特に赤血球製剤が103.2%伸びを示しており、今後さらに増加することが予想されています。

次に、「Ⅱ. 献血者数の推移について」ですが、先ほど示しました通り、需要の増加により献血への御協力も多くいただく必要があります。血液センターとしましては、献血バスの稼働台数を増加させ、県民の皆様に御協力いただける機会を増やさせていただきました。

また、沢山の協力団体様に、現在の血液事業の状況を御理解いただき、積極的に献血へのお力添えをいただいた結果と考えております。

血小板献血におきましては、近年の効率的な採血により、献血者数は減少しておりますが、血小板献血の確保量では103%と昨年度以上に御協力をいただいております。血漿献血に関しましても同様に医療機関の需要に合わせて御協力を依頼し、献血者数は増加しております。

全国的に高齢者人口は増加しております。献血に御協力いただいている年代別の献血者数の推移については、全国と同じような傾向を示しております。

P16、P17、P18は後程ご覧いただきたいと思っております。

高等学校における校内献血の実施状況ですけれども、新型コロナウイルスの影響により校内献血実施校数が減少しておりましたが、徐々に回復傾向となっております。

令和6年度に関しましても、令和5年度同様の実施校数になると予想しております。

若年層献血協力状況も昨年度同様の協力数となっております。

続いて、「Ⅲ. 血液の安定確保に向けた取り組みについて」に移ります。

行政との連携ですが、薬務課様から御説明があったとおり、各種キャンペーン等でお力添えをいただいております。

ここからは血液センターの取り組みについて御説明させていただきます。

まずは、新規協力団体の拡充についてです。表に記載の通り、多くの新規協力団体にお力添えをいただくことができました。

今年度においては全国展開しているファミリーマートの駐車場での献血実施をさせていただきました。

また多くの報道機関に取り上げていただき、献血啓発を兼ねた話題性のある献血会場となりました。

昨年度に引き続き、様々なプロスポーツ団体様にお力添えをいただき、

若年層への献血啓発や新規献血者層の拡充に繋がる活動を実施しました。

また大きなトピックスとして、浦和レッドダイヤモンド様と日本赤十字社埼玉県支部がパートナーシップ協定を締結したことがあります。さいたま市にあるイオンモール与野において、前田直輝選手、長沼洋一選手を招き、献血啓発活動を実施いたしました。非常に大きな反響があり、開店前から多くの方が来場し、浦和レッズの影響力を改めて感じたところであります。

さいたまパナソニックワイルドナイツ様は昨年度から選手にお力添えをいただき、啓発活動を実施いたしました。

今年度においては平野翔平選手、野口竜司選手、また公式チアリーダーである Miss Blue も御出演いただき、献血トークなどのイベントを実施いたしました。

埼玉西武ライオンズ様は、今年で 36 回目の御協力となりますが、地元羽生市出身の渡邊勇太郎投手、杉山遙希投手に御協力いただきました。献血に関するトークショーや選手とのキャッチボールができるイベント、また献血を体験できるキッズ献血等、献血に触れていただく活動を行いました。

大宮アルディージャ様ですが、選手出演の啓発動画や献血応援キャプテンのアルディと共に大宮献血ルームウエストにおいて、献血啓発活動を実施いたしました。

メディアリレーションですが、献血事業の現状を御理解いただくことを目的に報道機関向け血液センター見学会を開催いたしました。

埼玉新聞社様やテレビ埼玉様、様々な報道機関の記者の方に実際の献血の御協力から医療機関にお届けする流れまでを御理解いただきました。

コラボによる献血啓発ですが、今年度においても、アニメの「終末トレインどこへ行く」とのコラボや、映画「もしも徳川家康が総理大臣になったら」とのコラボキャンペーン等を実施いたしました。コラボキャンペーンでは非売品であるサイン付き台本やオリジナル T シャツをプレゼントするという、今までに無いキャンペーンとなりました。

次に、2024 年度末退役予定の航空自衛隊入間基地に配備されている EC-1 電子戦機、通称「カモノハシ」とのコラボキャンペーンを実施いたしました。

ファイルには電子戦隊長の直筆メッセージが入っており、自衛隊専門誌など、報道機関にも取り上げられる話題のキャンペーンとなりました。

	<p>1月27日より、埼玉新都市交通株式会社様のお力添えにより、新製車両2020系をモチーフにしたコラボキャンペーンを実施しております。行き先は献血を合言葉に、現在もキャンペーン実施中であります。</p> <p>10代を中心とする若年層への献血啓発活動としては、全国的に実施している「はたちの献血」や、現在実写での映画公開をしている「はたらく細胞」とのコラボを行っております。</p> <p>埼玉県においても、埼玉県学生献血推進連盟による献血体験のキッズ献血や、献血レシピ作成等、学生ボランティアから若年層への呼びかけをお願いしております。</p> <p>若年層の献血者の拡充のため、血液に関する出前講座を開催しております。</p> <p>今年度の特徴としては、講堂等ではなく、教室で実施するより近い距離での授業が増加しました。</p> <p>埼玉県赤十字血液センターにおいては、献血により興味を持っていただくため、SNSを積極的に活用しております。</p> <p>キャンペーン情報だけでなく、職員の日々の様子や協力団体様との取り組み、赤十字職員の「1分どこまで答えられるか」チャレンジ等、普段目に見えない裏側を発信しております。</p> <p>最後に令和6年度の全血献血者数をお示しさせていただき、説明を終了とさせていただきます。</p> <p>令和6年度においても赤血球製剤の需要の増加により、全血献血の必要数が増加しており、献血バスの配車数を増加させ、かつ様々なキャンペーンを展開し、協力の呼びかけを行ってきました。</p> <p>今後も協力団体様にお力添えをいただき、安全な血液を安定的に供給できるよう努めていければと考えております。</p> <p>ご清聴ありがとうございました。</p>
議長	<p>報告事項「令和6年度 埼玉県の献血状況について」及び「血液事業の動向について」について、事務局から報告を受けました。</p> <p>ただ今の説明について、御質問、御意見はございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
議長	<p>次に、「令和7年度 埼玉県献血推進計画(案)」について、御協議をお願いします。</p> <p>まず、事務局から説明をしてください。</p>

事務局  
(岡地課長)

薬務課長の岡地でございます。

資料3 令和7年度埼玉県献血推進計画(案)につきまして、御説明いたします。

失礼して着座にて進めさせていただきます。

まず、都道府県が作成する献血推進計画の位置づけにつきまして御説明いたします。

資料3の「1 はじめに」に計画策定の背景が記載されております。

平成15年7月に施行された「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第10条第5項に基づき、都道府県は毎年度、翌年度の献血の推進に関する計画を定めなければなりません。

このことから、埼玉県内において、県民の献血への理解を深め、採血事業者による献血の受入れが円滑に実施されるよう、令和7年度の献血推進に関する計画を「令和7年度埼玉県献血推進計画」として策定しようとするものです。

本日の協議会では、資料3にお示ししました「令和7年度埼玉県献血推進計画(案)」につきまして、御協議をいただきたいと存じます。

続きまして、本計画(案)の骨子について御説明します。

資料3を御覧ください。

大項目として、「1 はじめに」、「2 献血確保目標」、「3 具体的な方策」、「4 その他重要事項」の4項目を定め、その下に小項目を定めています。

また、別紙には市町村別の献血受付者の目標人数を定めています。

それでは、大項目ごとに説明をまいります。

#### 1 はじめに

この項目には、計画策定の背景、基本的な考え方、計画の期間が記載されています。

この計画は、国、市町村、採血事業者である埼玉県赤十字血液センター及び献血関係団体などと県が連携を図り、地域の実情に応じた献血推進活動を行い、より多くの県民の皆様へ献血の御協力をいただけるようにするための道しるべと考えております。

地域の実情を献血推進活動に速やかに対応させるため、単年度計画としております。

## 2 献血確保目標

この項目には、献血により確保すべき血液の目標量とこの目標量を確保するために必要な献血受付け者数を定めています。

まず、献血により確保すべき血液の目標量です。

資料3の2ページを御覧ください。

令和7年度に献血により確保すべき血液の目標量は、

全血献血が70,698L（令和6年度より2,424L増）、

成分献血が39,698L（令和6年度より412L増）としています。

この目標量は、過去3年間そして本年度の血液製剤の供給状況や医療機関の増床などの動向、また関東甲信越ブロック内の採血施設数を踏まえて算定しています。

続きまして、血液の目標量を確保するために必要な献血受付け者数についてです。

資料3の3ページを御覧ください。

令和7年度の献血受付け者数は、277,000人（令和6年度より6,000人増）を目標としています。

内訳は、全血献血の受付け者が200,000人（令和6年度より5,000人増）、成分献血の受付け者が77,000人（令和6年度より1,000人増）としています。

さらに、全血献血につきましては、移動採血車（献血バス）と固定施設（献血ルーム）での受付け者に分けられます。

移動採血車での受付け者を97,000人（令和6年度より2,000人増）、

固定施設での受付け者を103,000人（令和6年度より3,000人増）としています。

移動採血車の受付け者数は、市町村ごとに目標人数を定め、資料3の10ページ以降に別紙として添付しております。

なお、市町村ごとの目標人数につきましては、本日の協議会終了後、県の献血推進計画として各市町村に通知する予定としています。

## 3 具体的な方策

2に示した目標を達成するための具体的な方策としまして、資料3の4ページから記載しています。

令和7年度も太字で記載しました5つの柱に従い、事業を進めてまいります。

### (1) 献血の普及啓発と献血組織の充実

例年実施しております「ア 愛の血液助け合い運動」に加え、「イ 広報の強化」として、薬務課及び血液センターで運用しているXなどSNSを積極的に活用した事業を展開してまいります。

また、「ウ 市町村との連携」をさらに進め、市町村広報紙に市町村で実施する献血日時の掲載のほか、県が実施するキャンペーンやイベントなどの情報も掲載いただけるよう依頼します。

### (2) 若年層献血の推進

「ア 次世代の献血者の育成」として、

来年度も、献血を身近に感じてもらうため、中学生を対象に献血推進ポスターコンクールを引き続き実施いたします。

また、小学校から利用できる血液の出前講座や献血セミナーなどを積極的に活用いただくよう、働きかけを進めてまいります。

また、平成30年度に制作しました「献血体験動画」の視聴機会の拡大を図るよう努めてまいります。

「イ 若年層向けキャンペーンの実施」は、来年度も継続して実施します。

10代から30代をターゲットとした「初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーン」については、コロナ禍が明けた昨年度から再開しましたが、来年度も引き続き実施してまいります。

「ウ 高校生献血の推進」でございますが、

高校生献血の推進を図るため、引き続き、教育委員会等の関係機関と連携し、校内献血や血液に関する出前講座等を積極的に実施するほか、来年度も、「高校生献血カード」を県内全高等学校の新1年生に配布し、複数回献血への理解と協力を求めてまいります。

「エ 学生献血推進ボランティアとの連携」では、

埼玉県学生献血連盟の皆様と意見交換を行い、献血を促進したい若年層の方から、業務に生かせるような御意見をいただきたいと考えています。

また、県内の大学の学園祭に積極的に移動採血車を配車して、献血の協力を求めます。

「オ 県内プロスポーツチームとの連携」では、

昨年度も埼玉西武ライオンズ、埼玉ワイルドナイツ、浦和レッズなど様々なプロスポーツチームと連携して献血イベント等を実施しましたので、引き続き連携を図ってまいります。

昨年11月には、初めて浦和レッズの現役選手を招いた献血イベントが開催されました。今後もスポーツ団体との連携を深めていながら、若年層への献血機会をより多く提供してまいります。

### (3) その他献血の普及啓発

広い年齢層を対象とした普及啓発も欠かせないものとなっています。

ショッピングモールや大きなイベントでの献血の実施など、一般県民向けのイベントも積極的に実施してまいります。

また、現在の血液事業は、中高年層の献血御協力者により安定的に確保されていると言えますので、引き続き、中高年層への献血の正しい知識の普及啓発を目的としたシニアキャンペーンを進めてまいります。

### (4) 安全な血液の安定供給の確保

複数回献血者の推進を図り、事業所訪問などにより献血者の新規開拓を行います。

また、予約献血の推進により、献血の所要時間短縮及び血液の安定確保を図りたいと考えております。

さらに感染症のまん延下には、職員の健康状態の管理及び献血協力者への手指消毒や体温測定の徹底により、献血会場の良い衛生環境の保持に努めてまいります。

### (5) 適正使用の推進

埼玉県合同輸血療法委員会では、血液製剤をより安全に適切に使用す

	<p>るため、県内の医療機関等に対し調査等を実施しています。      今後も輸血療法の向上のため、この委員会活動を活性化し、「埼玉輸血フォーラム」の場で調査結果等を各医療機関にフィードバックしてまいります。</p> <p>4 その他重要事項      災害時を含め血液製剤不足時等の対応を行い、医療に必要な血液の確保に努めてまいります。</p> <p>本日は、委員の皆様それぞれの立場からの貴重な御意見をいただきたいと存じます。</p> <p>以上で令和7年度埼玉県献血推進計画（案）の説明を終わらせていただきます。</p>
議長	<p>ただ今の説明について、御質問、御意見はございますか。      （意見なし）</p> <p>先ほど、埼玉県赤十字血液センターの中川所長から令和6年度に実施した色々な報告をいただきましたが、それは全部踏襲するという形でしょうか。</p>
事務局 （岡地課長）	<p>基本的には同様に実施しますが、内容に加えられるものがあれば、血液センターとも話をしながら進めていきたいと思っております。</p>
議長	<p>色々な事業をなさったことで、献血量も上がってきたというふうに捉えてよろしいのでしょうか。</p>
事務局 （岡地課長）	<p>各種新しい取り組みや、コロナが落ち着いてきたという社会の変化等により、献血量が上がってきているという状況だと判断しています。</p>
議長	<p>委員の皆様、いかがでしょうか。      では、布田委員お願いします。</p>
布田委員	<p>若年層献血の推進について伺いたいところがございます。学校に対して、教育委員会を通じて献血セミナー等を開催されているということですが、このセミナーは大体どれぐらいの時間を要しているのでしょうか。</p>
事務局 （手塚副課長）	<p>概ね1時間程度のセミナーを実施しております。</p>
布田委員	<p>これは学校の授業の時間内、時間外のどちらで実施しているのでしょうか。</p>

事務局 (手塚副課長)	授業の時間内で実施しているところです。
議長	他に御質問等はありませんか。 では儘田委員、お願いいたします。
儘田委員	各種キャンペーンや啓発運動を実施したい場合の申し込みは、どちらに連絡をとればよろしいのでしょうか。
事務局 (手塚副課長)	そのような場合には、県庁の薬務課に御連絡取っていただければと存じます。 御提案を伺った上で、対応できるのであれば喜んで対応させていただきます。
議長	他に御質問等はありませんか。 他の御質問等はないようですので、「令和7年度 埼玉県献血推進計画（案）」について御承認いただきましたら、オンライン参加の方はリアクションボタンで、会場参加の方は挙手でお知らせください。
	(承認)
議長	それでは、皆様から御承認いただきましたので、この計画に沿って令和7年度の血液事業の推進をお願いします。  では、これを持ちまして、議事を終了します。  本日の埼玉県献血推進協議会に御出席の方で、全体的に御質問や御意見等がありましたら、ぜひこの場で頂戴したいと思います。何か御意見等ございますでしょうか。 松伏町長の鈴木委員、お願いいたします。
鈴木委員	(音声トラブルにより鈴木委員の発言を聞き取ることができなかった。このため、後日発言内容を確認したところ、次のような質問をしたかったとのことであり、それを受けて鈴木委員に回答し、その了承を得た。)  【質問】 説明の中で、昨年度は献血車の稼働台数を増やしたとありましたが、どの程度増やしたのかをお伺いしたい。また、現在の献血車の稼働状況を教えていただきたい。 【回答】(事務局 薬務課) 稼働台数は、1年間に稼働した採血車の延べ台数です。 R4年度：1, 655台から R5年度：1, 706台に増加させたとのこと。 なお、この場合の採血車稼働状況は1日あたり5台前後となります。

議長	<p>会場の皆様、せっかくの機会ですので、忌憚のない御意見を伺いたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p> <p>御意見等ないようですので、これもちまして議事を終了させていただきます。</p> <p>その他、事務局から何かございましたらお話をお願いいたします。</p>
事務局 (岡地課長)	<p>オンライン音声の不具合があり、申し訳ございません。</p> <p>その他、血液事業については特にございません。</p>
議長	<p>それでは、今後、血液事業や献血計画の実施にあたって、委員の皆様の御協力が必要と存じます。</p> <p>今後とも皆様の御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。</p> <p>これもちまして、本日の議事を終了し、議長の任を降ろさせていただきます。</p> <p>円滑な議事の進行に御協力いただき、ありがとうございました。</p>
司会	<p>登坂会長、ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様には、長時間にわたり御協議をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>今後とも、血液事業推進のため、お力添えを賜りますようお願いいたします。</p> <p>以上もちまして、「令和6年度 埼玉県献血推進協議会」を終了いたします。</p> <p>なお、資料等の県ホームページへの掲載などにつきましては、事務局に一任していただきますようお願い申し上げます。</p> <p>会場参加の皆様は、お忘れ物のないようにお帰りください。</p> <p>オンライン参加の皆様は、接続を切断していただき差し支えございません。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p>